

<特集「他動性」>

## インドネシア語の他動性 Transitivity in Indonesian

佐近 優太  
Yuta Sakon

東京外国語大学大学院総合国際学研究科  
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:** 本稿の目的は、特集「他動性」(『語学研究所論集』第19号, 2014, 東京外国語大学)におけるアンケート項目に対するインドネシア語のデータを与えることである。

**Abstract:** This report aims to provide the Indonesian data which answers the thirty survey questions for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 19, 2014, which focuses on the cross linguistic study of 'Transitivity'.

**キーワード:** インドネシア語、他動性

**Keywords:** Indonesian, Transitivity

### 1. はじめに

本稿では、インドネシア語の他動性に関する事項について記述を行う。今回の記述は『語学研究所論集』第19号(2014)の特集テーマ「他動性」のアンケート項目に基づいている。アンケート回答に際しては、執筆者が日本語からインドネシア語<sup>1</sup>に翻訳した後、コンサルタント二名<sup>2</sup>に協力していただき修正を行った。例文については、一行目にアンケート原文の日本語を提示している。説明はアンケート原文の項目ごとに行うが、補足が必要な場合は、アンケート項目外の文も適宜用いている。項目外の例文は執筆者が作成し、コンサルタントによるチェックを受けたものである。

### 2. インドネシア語データ

#### 【直接影響・変化】

最初に、行為の対象の変化を含意する動詞群を見る。(1)-(3)にあるように、インドネシア語では状態変化を含む事象は、状態を表す語に使役接尾辞-kanを使って表されることが多い。なお、アンケート項目ではこのような形態をとる動詞に偏ったが、membunuh「(人)殺す」などの接尾辞を伴わない他動詞も多く存在する。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> 基本的に書き言葉における標準インドネシア語を用いるが、一部口語体またはインフォーマルな文体も含まれる。そうした場合はその都度明記する。

<sup>2</sup> コンサルタントは Himawan Pratama 氏と Rahmat Sopian 氏である。この場を借りて感謝の意を表す。

1-a 彼はそのハエを殺した

- (1) Dia me-mati-kan<sup>3</sup> lalat itu.  
3SG ACT-die-CAUS fly that  
「彼はそのハエを殺した」

1-b 彼はその箱を壊した

- (2) Dia {me-rusak(-kan) / meng-hancur-kan} kotak itu.  
3SG ACT-break-CAUS / ACT-shatter-CAUS box that  
「彼はその箱を壊した」

1-c 彼はそのスープを温めた

- (3) Dia {meng-hangat-kan / memanas-kan} sup itu.  
3SG ACT-warm-CAUS / ACT.hot-CAUS sup that  
「彼はそのスープを温めた」

これらのような文において、結果のキャンセルは基本的に容認されない。

1-d 彼はそのハエを殺したが、死ななかった

- (4) ?Dia me-mati-kan lalat itu, tapi lalat itu tidak mati.  
3SG ACT-die-CAUS fly that but fly that NEG die  
「彼はそのハエを殺したが、そのハエは死ななかった」

#### 【直接影響・無変化】

行為の対象の変化を含意しない場合は他動詞が用いられ、前置詞などを伴うことはない。

2-a 彼はボールを蹴った

- (5) Dia menendang bola itu.  
3SG ACT.kick ball that  
「彼はボールを蹴った」

2-b 彼女は彼の足を蹴った<sup>4</sup>

- (6) Dia menepak kaki orang itu.  
3SG ACT.kick foot person that  
「彼はその人の足を蹴った」

---

<sup>3</sup> 接頭辞 meN-の N-の部分は語幹の冒頭音に応じて m-, n-, ng-, ny-, nge-, Ø-の形で現れる。これらは語幹にそのまま接続する場合と、冒頭音と置き換わる場合がある。本稿では前者は(i)のように形態素境界を設け、後者は(ii)のように表記する。

(i) mem-bawa (ii) memukul [meN- + (p)ukul]  
ACT.take ACT.hit

<sup>4</sup> 「ボールを蹴った」と「彼の足を蹴った」で異なる動詞が用いられている理由に関して、コンサルタントから menendang に比べ menepak の方が悪意などの行為者の気持ちが含意されることがあるという意見が得られた。

2-c 彼はその人にぶつかった(故意に)

- (7) Dia menabrak orang itu.  
3SG ACT.collide person that  
「彼はその人にぶつかった」

接頭辞 *meN-*が用いられる能動文においては、(7)のように「当該行為は意図的になされた」ということが無標の解釈である。無意志の解釈を行うことは可能であるが、通常は(8)のように *tidak sengaja* 「意図せず」という副詞を用いて表す<sup>5</sup>。

2-d 彼はその人とぶつかった(うっかり)

- (8) Dia (tidak sengaja) menabrak orang itu.  
3SG NEG deliberately ACT.collide person that  
「彼はうっかりその人とぶつかってしまった」

#### 【知覚 2A vs. 2B】

「～が見える」「～が聞こえる」といった他動性の低い知覚行為は接頭辞 *ter-*または接周辞 *ke-an* を用いて表される(9), (11)。一方で意図的な「見る」「聞く」は接頭辞 *meN-*が用いられる(10), (12)。

3-a あそこに人が数人見える

- (9) {*Ter-lihat / Ke-lihat-an*}<sup>6</sup> (ada) beberapa orang di situ.  
*TER-see / KE-see-AN* exist several person in there  
「あそこに数人(いるのが)見える」

---

<sup>5</sup> 非意図性を表す接辞に接頭辞 *ter-*があるが、非意図の意味は主に自動詞語幹に接続する場合に顕在化する(a)。

- a. Dia ter-jatuh.  
3SG *TER-fall*  
「彼はうっかり落ちてしまった」

他動詞に付く場合は主語が被動作主でなければならず、アンケート原文とは情報構造上の違いが生じる。さらにこの場合行為は必ずしも非意図的に行われる必要はない。(b)(c)の場合であればそれぞれ動作主が故意にぶつかった場合にも使用可能である。

- b. Orang itu ter-tabrak oleh dia.  
person that *TER-collide* by 3SG  
「その人は彼にぶつかられた」

- c. Dia ter-tabrak orang itu.  
3SG *TER-collide* person that  
「彼はその人にぶつかられた」

<sup>6</sup> 接頭辞 *ter-*は注5にもあるように、機能が一つに定まらない。そのため、便宜上 *ter-*のグロスをも *TER-*で統一する。また接周辞 *ke-an* についても、自発的用法の他に被害受身を表す場合もあるため、グロスを *KE-AN* とする。

3-b 私はその家を見た

- (10) Saya me-lihat rumah itu.  
1SG ACT-see house that  
「私はその家を見た」

3-c 誰かが叫んだのが聞こえた

- (11) {Ter-dengar / Ke-dengar-an} seseorang berteriak.  
TER-hear / KE-hear-AN someone scream  
「誰かが叫んだのが聞こえた」

3-d 彼はその音を聞いた<sup>7</sup>

- (12) Dia men-dengar(-kan) suara itu.  
3SG ACT-hear-KAN<sup>8</sup> voice that  
「彼はその音を聞いた」

ただし、(9)や(11)は受動文であることに注意が必要である(cf. 注 5)。そのため、「私(から/に)は見える/聞こえる」と言う場合は、(13)のように oleh 「よって」を用いて知覚者を標示する。以下は lihat 「見る」の例である。

- (13) {Ter-lihat / Ke-lihat-an} (ada) beberapa orang di situ oleh saya.  
TER-see / KE-see-AN exist several person in there by 1SG  
「私にはあそこに人が数人(いるのが)見える」

【(知覚 2A) 発見・獲得・生産など】【追及】

この項目においては特筆すべき形態・統語的特徴は確認できない。

4-a 彼は(なくした)カギを見つけた

- (14) Dia menemu-kan kunci yang hilang kemarin.  
3SG ACT.find-KAN key REL disappear yesterday  
「彼は昨日なくしたカギを見つけた」

---

<sup>7</sup> 接尾辞-kan が付与された形 mendengarkan が明確に「意識して聞く」という行為を表すのに対し、接尾辞-kan のない形 mendengar は「聞こえてくる」という事態もあらわしうる。以下の文を参照。

Saya men-dengar suara yang sangat merdu dari kejauhan,  
1SG ACT-hear voice REL very beautiful from distant

dan saya berusaha untuk men-dengar-kan lebih seksama.  
and 1SG make.effort to ACT-hear-KAN more detail

「(私に)遠くから美しい声が聞こえてきたので、私は注意してその声を聴いた」

<sup>8</sup> 接尾辞-kan には(a)benefactive, (b)instrumental, (c)causative の機能の他に、(d)applicative として働くが付随する機能が曖昧なものや(e)統語的変化を引き起こさず、標示が非義務的な場合がある(Kroeger 2007, Shiohara 2012)。本稿では(d)(e)のグロスを-KAN と表記する。

4-b 彼は椅子を作った

- (15) Dia mem-buat kursi.  
3SG ACT-make chair  
「彼は椅子を作った」

5-a 彼はバスを待っている

- (16) Dia sedang menunggu bus.  
3SG PROG ACT.wait bus  
「彼はバスを待っている」

5-b 私は彼が来るのを待っていた

- (17) Tadi saya sedang menunggu dia datang.  
just.now 1SG PROG ACT.wait 3SG come  
「さっき、私は彼が来るのを待っていた」

5-c 彼は財布を探している

- (18) Dia sedang men-cari dompet=nya.  
3SG PROG ACT-seek wallet=3  
「彼は財布を探している」

#### 【知識 1】

「知識がある」という意味の「知る」は tahu、「人を知っている」という場合には kenal を用いるという違いがある。tahu に接頭辞 meN- と applicative の接尾辞-i がついた mengetahui は、よりフォーマルな形式である。一方で kenal の場合は接頭辞 meN-及び接尾辞-i の有無によって意味が変化する。kenal では知っているという状態が強調されるのに対し、mengenal ではプロセスが意識される<sup>9</sup>。さらに、接尾辞-i が付いた場合、(21)のように「認識する」という意味に変化する。

6-a 彼はいろんなことをよく知っている

- (19) Dia {tahu (tentang)/ menge-tahu-i} banyak hal.  
3SG know about ACT-know-APPL many thing  
「彼はいろんなことをよく知っている」

6-b 私はあの人を知っている

- (20) Saya {kenal (dengan)/ mengenal} orang itu.  
1SG know with/ ACT.know person that  
「私はあの人を知っている」

<sup>9</sup> このような接頭辞 meN-の有無による違いは Soh & Nomoto (2015: 169)がマレーシア語において指摘しているところであり、インドネシア語にも同様に当てはまると言える。

- (21) Saya bisa mengenal-i wajah orang itu dengan komputer itu.  
 1SG can ACT.know-APPL face person that with computer that  
 「そのコンピューターを使ってその人の顔を認識できた」

「～語が出来る」では、接頭辞 *ber-* を用いる<sup>10</sup>。

6-c 彼はロシア語ができる

- (22) Dia ber-bahasa Rusia.  
 3SG *BER*-language Russia  
 「彼はロシア語が出来る」

また、動詞 *paham* 「理解する」を用いることもできる。前述の「知る」と同じように接頭辞 *meN-* と接尾辞 *-i* を付加する。ただし、意味に曖昧性が生じる。(23)では、「ロシア語をすみずみまで理解している」だけでなく、「(聞いて)理解はできるが、話せない」という解釈も可能である。

- (23) Dia memaham-i bahasa Rusia.  
 3SG ACT.understand-APPL language Russia  
 「彼はロシア語を理解している」

## 【知識2】

「覚えている」は動詞 *ingat* を用いて表す(24a)。しかし、【知識1】で現れていた接尾辞 *-i* や接尾辞 *-kan* を付与した場合、意味が「忠告する」のように変化するため文意とあわなくなる(24b)。また(24b)の場合目的語は通常注意の内容ではなく注意する相手をとるため、文法的にも容認度が低くなる。

7-a あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？

- (24) a. Apa=kah Anda masih ingat apa yang saya katakan kemarin?  
 What=Q 2SG still remember what REL 1SG say yesterday  
 「あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか」

- b. ?Apa=kah Anda masih meng-ingat-{kan/i} apa yang saya katakan kemarin?  
 what=Q 2SG still ACT-remember-KAN/APPL what REL 1SG say yesterday  
 「あなたはきのう私が忠告したことを覚えていますか」

「忘れる」の場合は動詞 *lupa* を用いて表すことが一般的である(25a)。しかし、*ingat* の場合と異なり、接尾辞 *-kan* を用いた *melupakan* でも同じ意味を表すことが出来る(25b)。ただし、接尾辞 *-i* を用いた *melupai* はやや古い形で、現在ではほとんど使われていない。

<sup>10</sup> 接頭辞 *ber-* は自動詞のプロセスを表す語を作るほか、所有の意味を表すなど多くの機能を持つ。そのため便宜上グロスを表記する場合は *BER-* とし、本稿のテーマと直接関係のない場合については分析を行わない。

7-b 私は彼の電話番号を忘れてしまった

(25) a. Saya lupa (dengan) nomor telepon=nya.  
1SG forget with number telephone=3  
「私は彼の電話番号を忘れてしまった」

b. Saya me-lupa-{kan/\*i} dengan nomor telepon=nya.  
1SG ACT-forget-KAN/APPL with number telephone=3  
「私は彼の電話番号を忘れてしまった」

### 【感情1】

感情を表す場合は大きく二通りあり、感情を表す語に前置詞を続けるか、applicativeの接尾辞-iを用いる方法がある(26)-(28)。ただしコンサルタントによれば、(27a)のように感情の対象がモノの場合、前置詞があると不自然である。

8-a 母は子供たちを深く愛していた

(26) a. Se-orang ibu sayang (pada) anak=nya.  
one-CLF mother love on child=3  
「母は子供たちを深く愛していた」

b. Se-orang ibu menyayang-i anak=nya.  
one-CLF mother ACT.love-APPL child=3  
「母は子供たちを深く愛していた」

8-b 私はバナナが好きだ

(27) a. Saya suka (?pada) pisang.  
1SG like on banana  
「私はバナナが好きだ」

b. Saya suka (kepada) Anda.  
1SG like on 2SG  
「私はあなたが好きだ」

c. Saya menyuka-i pisang.  
1SG ACT.like-APPL banana  
「私はあなたが好きだ」

8-c 私はあの人が嫌いだ

(28) a. Saya benci (kepada) orang itu.  
1SG dislike on person that  
「私はあの人が嫌いだ」

- b. Saya mem-benci<sup>11</sup> orang itu.  
 1SG ACT-dislike person that  
 「私はあの人が嫌いだ」

【感情 2】

「～を欲しがっている」、「～を必要としている」には、それぞれ *ingin/mau* (29a), *butuh/perlu* (30a) と異なる語彙を用いる。これらは接辞を伴うこともできるが、【感情 1】と違い、接尾辞-*kan* が用いられる(29b), (30b), (30c)。

9-a 私は靴が欲しい

- (29) a. Saya {ingin / mau} sepatu.  
 1SG want / want shoes  
 「私は靴が欲しい」
- b. Saya meng-ingin-*{kan / \*i}* sepatu.  
 1SG ACT-want-KAN / APPL shoes  
 「私は靴が欲しい」

9-b 今、彼にはお金が要る

- (30) a. Dia {butuh / perlu} uang.  
 3SG need / need money  
 「彼はお金が必要だ」
- b. Dia mem-butuh-*{kan / \*i}* uang.  
 3SG ACT-need-KAN / APPL money  
 「彼はお金が必要だ」
- c. Dia memerlu-*{kan / \*i}* uang.  
 3SG ACT.need-KAN / APPL money  
 「彼はお金が必要だ」

【感情 3】

「怒る」と「怖い」は *marah* と *takut* で表すことができる(31a), (32a)。両者の違いとして、*marah* 「怒る」は前置詞が義務的であるのに対し、*takut* 「怖い」は前置詞を省略することができる。また、(31b)のように「怒る」は接尾辞-*i* を用いた *memarahi* という形を用いることができるのに対し、*takut* に接尾辞-*i* を用いた *menakuti* という形は「心配させる」という意味となり、文意と合わない(32b)。

<sup>11</sup> *membenci* 「嫌う」も接尾辞-*i* が付いた形であるとされる。これは *i* が二つ重なってしまうという音韻的な理由から片方の *i* が削除されていると考えるためである(野元&ウン・シンティ 2014: 374)。



10-a (私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている

- (31) a. Ibu saya marah kepada adik saya karena (dia) berbohong.  
mother 1SG angry on brother 1SG because 3SG lie  
「私の母は弟が嘘をついたので、彼を怒った」

- b. Ibu saya me-marah-i adik saya karena (dia) berbohong.  
mother 1SG ACT-angry-APPL brother 1SG because 3SG lie  
「私の母は弟が嘘をついたので、彼を怒った」

10-b 彼は犬が怖い

- (32) a. Dia takut (kepada) anjing.  
3SG scared on dog  
「彼は犬が怖い」

- b. Dia menakut-i anjing.  
3SG ACT.scared-APPL dog  
「彼は犬を心配させた」

#### 【関係 1】

「似ている」は mirip<sup>12</sup>、「含む」は mengandung という語を用いる。

11-a 彼は父親に似ている

- (33) Dia mirip ayah=nya.  
3SG resemble father=3  
「彼は父親に似ている」

11-b 海水は塩分を含んでいる

- (34) Air laut mengandung(\*-i)<sup>13</sup> garam.  
water sea ACT.contain-APPL salt  
「海水は塩分を含んでいる」

#### 【関係 2】

(35)のようにコピュラ文では、adalah の使用は義務的ではない。「～になる」は menjadi という動詞を使って表す(36)。

<sup>12</sup> menyerupai という serupa 「同じ」という語に接頭辞-i を付与した形も存在するが、この場合「全く同じ」という意味で、「何者かが父親の姿を借りて現れた」などといった文脈で用いられる。

Dia menyerupa-i ayah=nya.  
3SG ACT.same-APPL father=3  
「彼は父親と全く同じである」

<sup>13</sup> 野元&ウン・シンティ(2014)によれば、マレーシア語では mengandung-i[ACT.contain-APPL]という接尾辞-i の付いた形が用いられるが、インドネシア語ではこの形式は容認度が低い。

12-a 私の弟は医者だ

- (35) Adik saya (adalah) (se-orang) dokter.  
brother 1SG be one-CLF doctor  
「私の弟は医者だ」

12-b 私の弟は医者になった

- (36) Adik saya men-jadi (se-orang) dokter.  
brother 1SG ACT-become one-CLF doctor  
「私の弟は医者になった」

### 【能力1】

以下に現れる可能の助動詞のうち、**mampu/dapat** は主に能力可能にのみ用いられ、状況可能の文脈では適さないことに注意が必要である。

13-a 彼は車の運転ができる。

- (37) Dia {bisa / mampu / dapat} mengendara-i mobil.  
3SG can / can / can ACT.drive-APPL car  
「彼は車の運転ができる」

13-b 彼は泳げる

- (38) Dia {bisa / mampu / dapat} berenang.  
3SG can / can / can swim  
「彼は泳げる」

### 【能力2】

(39)のように、「上手だ」は **mahir** 「熟練の」または **pintar** 「賢い」を使って表す。「苦手だ」は(40a)のように、否定文を用いて表すことが普通である。**mahir** や **pintar** と対義語である **bodoh** 「愚かな」はこのような形式では用いられない(40b)。また、「走る」の場合は **pintar** や **mahir** といった語を使うことが出来ず(41a)、(41b)や(42)のように「彼は速く走る」「彼は速く走ることが出来ない」などと言い換える必要がある。語彙によるこのような違いの要因については、今後の課題とする。

14-a 彼は話をするのが上手だ

- (39) Dia {mahir / pintar} berbicara.  
3SG skilled / wise talk  
「彼は話をするのが上手だ」

- (40) a. Dia tidak {mahir / pintar} berbicara.  
3SG NEG skilled / wise talk  
「彼は話をするのが苦手だ」

- b. ?Dia bodoh berbicara.  
3SG poor talk  
「彼は話すのが苦手だ」
- (41) a. ?Dia {mahir / pintar} berlari.  
3SG skilled / wise run  
「彼は速く走る」
- b. Dia berlari dengan cepat.  
3SG run with fast  
「彼は速く走る」
- 14-b 彼は走るのが苦手だ
- (42) Dia tidak bisa berlari dengan cepat.  
3SG NEG can run with fast  
「彼は速く走ることが出来ない」

【移動】

(43)のように「着いた」は自動詞+前置詞で表すが、(44)-(46)の「渡る」「通る」は他動詞をとる。「渡る」は接尾辞-iを用いた *menyebrangi* でも表すことが出来るが、これは(45a)にあるように海など面積が大きいものを横断するというニュアンスを含むため、*jalan* 「道」のようなものを目的語にとると不自然になる(45b)。

- 15-a 彼は学校に着いた
- (43) Dia tiba di sekolah.  
3SG arrive in school  
「彼は学校に着いた」
- 15-b 彼は道を渡った/横切った
- (44) Dia menyeberang jalan=nya.  
3SG ACT.cross road=3  
「彼は道を渡った」
- (45) a. Dia menyeberang-i laut.  
3SG ACT.cross-APPL sea  
「彼は海を渡った」
- b. ?Dia menyeberang-i jalan=nya.  
3SG ACT.cross-APPL road=3  
「彼は道を渡った」

15-c 彼はこの道を通った

- (46) Dia {me-lewat-i / me-lalu-i} jalan ini.  
3SG ACT-through-APPL / ACT-through-APPL road this  
「彼はこの道を通った」

【感覚 1】

「お腹がすく」や「喉が渴く」が、それぞれ *lapar* と *haus* を用いて表すことが出来る。これに被害受身を表す接周辞 *ke-an* を用いると、より苦しんでいるニュアンスが付与される。

16-a 彼はお腹を空かしている

- (47) a. Dia *lapar*.  
3SG hungry  
「彼はお腹を空かしている」

- b. Dia *ke-lapar-an*.  
3SG *KE-hungry-AN*  
「彼は空腹に苦しんでいる」

16-b 彼は喉が渴いている

- (48) a. Dia *haus*.  
3SG thirsty  
「彼は喉が渴いている」

- (49) b. Dia *ke-haus-an*.  
3SG *KE-thirsty-AN*  
「彼は喉の渴きに苦しんでいる」

【感覚 2】

*dingin* 「寒い」などの感覚を表す語は、経験者を主語にとることができない。経験者を主語とする場合は、被害受身の接周辞 *ke-an* を用いるか(50a)、*merasa* 「感じる」という動詞を用いる(50b)。反対に、(51)のように *hari ini* 「今日」が主語となる場合は接周辞 *ke-an* の形は用いられない。

17-a 私は寒い

- (50) a. Saya {*ke-dingin-an* / \**dingin*}.  
1SG *KE-cold-AN* / cold  
「私は寒い」

- b. Saya *me-rasa dingin*.  
1SG ACT-feel cold  
「私は寒さを感じる」

17-b 今日は寒い

- (51) Hari ini {\*ke-dingin-an / dingin}.  
day this KE-cold-AN / cold  
「今日は寒い」

【(社会的) 相互行為 1】

「手伝う」は動詞 *membantu* または *menolong* で表し、助ける対象を目的語にとる(52)。行為を明示する場合は(53)のように前置詞 *untuk* を用いる。

18-a 私は彼を手伝った／助けた

- (52) Saya {mem-bantu / menolong} dia.  
1SG ACT-help / ACT.help 3SG  
「私は彼を手伝った/助けた」

18-b 私は彼がそれを運ぶのを手伝った

- (53) Saya mem-bantu dia untuk mem-bawa barang itu.  
1SG ACT-help 3SG to ACT-take thing that  
「私は彼がそれを運ぶのを手伝った」

【(社会的) 相互行為 2 (言語行動)】

「聞く(尋ねる)」は自動詞+前置詞と接尾辞-*i/-kan* を用いる二種類の方法がある。(54a)の場合は、前置詞 *kepada* 「～へ、～に」、*tentang* 「ついて」がないと非文となる。接尾辞-*kan* を用いた(54b)の場合は質問の内容の方を目的語にとり、人は前置詞 *kepada* を用いて表す。接尾辞-*i* を用いた(54c)の場合は人を目的語にとり、質問の内容は *tentang* で表す。どちらの場合も前置詞を省略し、英語の二重目的語構文のような形式をとることは出来ない。

19-a 私はその理由を彼に聞いた

- (54) a. Saya bertanya \*(kepada) dia \*(tentang) alasan=nya.  
1SG ask to 3SG about reason=3  
「私はその理由を彼に聞いた」
- b. Saya menanya-kan alasan=nya \*(kepada) dia.  
1SG ACT.ask-KAN reason=3 to 3SG  
「私はその理由を彼に聞いた」
- c. Saya menanya-i dia \*(tentang) alasan=nya.  
1SG ACT.ask-APPL 3SG about reason=3  
「私はその理由を彼に聞いた」

「話す」を表す動詞には *bicara*, *sampai*, *beritahu* などがある。(55a), (56), (57a)で示すように、接尾辞-*kan* を用いた場合は目的語に話す内容を取り、話す相手は前置詞句で標示するという点で、前述の「聞く」共通している。ただし、*bicara* の場合は *berbicara* という自動詞形が存在するのに対し(55b)、\**bersampai*,

\*berberitahu という形式は無い。また、beritahu は接尾辞を伴わない形式を用いて話す相手を目的語にとることができるが(57b)、他の二つの動詞については、?menyampai, \*membicara という形はない。3つの動詞に共通して接尾辞-iを伴う形は容認度が低い(\*menyampai(-i), \*membicarai, \*memberitahui)。

19-b 私はそのことを彼に話した

(55) a. Dia mem-bicara-kan hal itu kepada dia.  
3SG ACT-talk-KAN thing this to 3SG  
「私はそのことを彼に話した」

b. Saya berbicara \*(kepada) dia \*(tentang) hal itu.  
1SG ask to 3SG about thing that  
「私はそのことを彼に話した」

(56) Dia menyampai-kan hal itu kepada dia.  
3SG ACT.reach-CAUS thing this to 3SG  
「私はそのことを彼に話した」

(57) a. Dia mem-beritahu-kan hal itu \*(kepada) dia.  
3SG ACT-inform-KAN thing this to 3SG  
「私はそのことを彼に話した」

b. Dia mem-beritahu dia \*(tentang) hal itu.  
3SG ACT.inform 3SG about thing this  
「私はそのことを彼に話した」

【再帰・相互】

「会う」は接頭辞 ber-を用いた自動詞で表す場合(58a)と、接尾辞-iを伴った他動詞で表す場合(58b)がある。前者は kebetulan 「偶然」と共起することが出来るが、後者は能動的行為であることを含意するため、kebetulan と共起することはできない(59)。

20-a 私は彼と会った

(58) a. Saya {berjumpa / bertemu} dengan=nya.  
1SG meet / meet with=3  
「私は彼と会った」

b. Saya {men-jumpa-i / menemu-i} dia.  
1SG ACT-find-APPL / ACT.find-APPL 3SG  
「私は彼と会った」

(59) Saya kebetulan {bertemu dengan / \*menemu-i} dia.  
1SG accidentally meet with / ACT.meet-APPL 3SG  
「私は偶然彼と会った」

#### 略号一覧

1: first person, 2: second person, 3: third person, ACT: active voice, APPL: applicative, CAUS: causative, CLF: classifier, NEG: negation, PL: plural, POSS: possessive, PROG: progressive, Q: question marker, REFL: reflexive, REL: relative, SG: singular

#### 参考文献

- Kroeger, Paul R. (2007). “Morphosyntactic vs. morphosemantic functions of Indonesian -kan.” In *Architectures, rules, and preferences: Variations on themes of Joan Bresnan*, Annie Zaenen, Jane Simpson, Tracy Holloway King, Jane Grimshaw, Joan Maling, and Chris Manning (eds.), Stanford: CSLI Publications, pp.229–251.
- Shiohara, A. 2012. “Applicatives in Standard Indonesian.” *Senri ethnological studies*, 77, pp.59-76.
- Soh, H.L. and Nomoto, H., 2015. “Degree achievements, telicity and the verbal prefix meN-in Malay”. *Journal of Linguistics*, 51(1), pp.147-183.
- 野元裕樹&ウン・シンティ. 2014. 「マレーシア語と述語階層」『語学研究所論集』19, 東京外国語大学, pp.365-379.

執筆者連絡先 : sakon.yuta.n0@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2020年12月15日